

狩川におけるカモ科鳥類の記録

日比野 義介

Gisuke Hibino : Records of Ducks in Karikawa
of Western Kanagawa Prefecture

はじめに

狩川周辺の鳥類記録については、すでに報告したところであるが（日比野，2006），1982年から2004年までのカモ類の推移について別途とりまとめたので，報告する。

調査方法、期間及び調査地

晴天又は曇天の土曜日，日曜日又は祭日の早朝に1～2時間程度，1983年から1992年までの10年間は主に狩川大泉河原橋から神明橋間を，また1993年から2004年までの12年間は調査地域を拡大して大雄橋から山道橋間を，時速3km程度の歩く速度で移動し，姿を確認した。なお，1997年は調査の中断により，2000年は野帳の喪失により一時期（冬期）の記録となっている。

年ごとの確認種

調査区域内において合計で13種のカモを確認し，カルガモは，通年，その他の12種は9月から翌年4月の間に確認した。なお，調査期間を通じて毎年確認したのは，カルガモとコガモの2種であった。また，マガモは，1986年及び2002年を除いて毎年，オナガガモは，1987

年1月から1999年1月まで毎年，ヒドリガモは，1986年1月以降，毎年，それぞれ確認した（表1）。

年間を通じた確認種数は，1983年から1985年までは3種，1986年から2004年までは5～9種で，最大は2001年の9種であった。

種別の個体数変動

オシドリ *Aix galericulata*

山地の溪流や湖沿いで繁殖するが，本県では，主に冬鳥として周囲を大きな森に囲まれた大きな湖に渡来する（日本野鳥の会神奈川支部，2002）。調査区域内では，1986年11月～1987年2月，1988年1月，1987年1月4日～2月7日に1羽，1996年1月15日に1羽，1998年11月28日に2羽及び2004年4月24日，♀1羽を確認した。

マガモ *Anas platyrhynchos*

北海道と本州中部以北の山地の湖沼で少数繁殖するが，多くは冬鳥として渡来する。本県では冬鳥で各地の池や川で普通に見られる（日本野鳥の会神奈川支部，2002）。調査区域内では，1983年～1992年

表 1. 年ごとの確認種

種数／年	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
オシドリ				○	○	○								○		○						○
マガモ	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トモエガモ								○														
ヒドリガモ				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アメリカヒドリ																	○	○	○	○	○	○
オナガガモ				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	
ヨシガモ																		○	○			
オカヨシガモ																			○			
シマアジ						○																
ハシビロガモ				○	○		○	○						○		○		○				
カワアイサ																					○	○
年度毎種数	3	3	3	6	7	7	6	7	5	5	5	5	5	7	5	7	6	5	9	5	7	7

にかけて、1991年11月16日の♂♀8羽を最大として、ほぼ毎年1～5羽を確認した。1993年～2004年は、1994年12月24日の15羽を最大とし、1996年1月までは、2羽～12羽を確認したが、1996年2月以降は、1～6羽へと減少した(図1)。

カルガモ *Anas poecilorhyncha*

全国に留鳥又は夏鳥として分布し、本県でも普通に繁殖している(日本野鳥の会神奈川支部、2002)。調査区域内では、1983年～1986年間は、14羽を最大とし、2羽～13羽を確認したが、1987年以降は、1990年12月の152羽、2004年3月の153羽が最大であった。また、1986年8月3日及び8月31日にヒナ5羽を確認しており、定着して繁殖しているものと思われる(図2)。

コガモ *Anas crecca*

少数は本州の山地や北海道で繁殖するが、主に冬鳥。本県では冬鳥として見られ他のカモより早く9月から渡来し数も多く、5月頃まで滞在する(日本野鳥の会神奈川支部、2002)。調査区域内では、1985年12月以降増加傾向にあった。毎年9～10月に飛来し、翌年4月までには、全数が調査区域外へ飛び去った。なお、1996年1月15日に最大♂♀113羽を確認した(図3)。

トモエガモ *Anas Formosa*

冬鳥として渡来するが、東日本では少ない。本県には、冬鳥としてごく少数が渡来する(日本野鳥の会神奈川支部、2002)。調査区域内では、1990年12月24日♂1羽を確認した。

ヒドリガモ *Anas Penelope*

冬鳥として全国の湖、川、内湾に渡来する。本県では各地で普通に見られ数も多いが、小さな川や池には少なく、大きな川や河口にまとまっている傾向がある(日本野鳥の会神奈川支部、2002)。調査区域内では、1996年1月28日19羽を初めて確認した。一時、確認数が減少したが、これは、群が狩川の下流へ移動したもので、その後、1998年1月31日最大♂♀81羽へと増加した。(図4)。

アメリカヒドリ *Anas Americana*

北米に分布し、全国的に少数が冬鳥として渡来する。本県でも数少ない冬鳥として渡来し、ヒドリガモの群れに混じって1羽の♂が時々見られる程度である(日本野鳥の会神奈川支部、2002)。調査区域内では、1998年11月28日に2羽、12月30日に3羽、2001年1月13日～2月11日に♂1羽、2003年1月19日～2月11日に♂1羽、2004年3月6日に♂1羽を確認した。

オナガガモ *Anas acuta*

冬鳥として湖沼、河川に多く渡来する。本県では、各地に普通に見られ、数も多い(日本野鳥の会

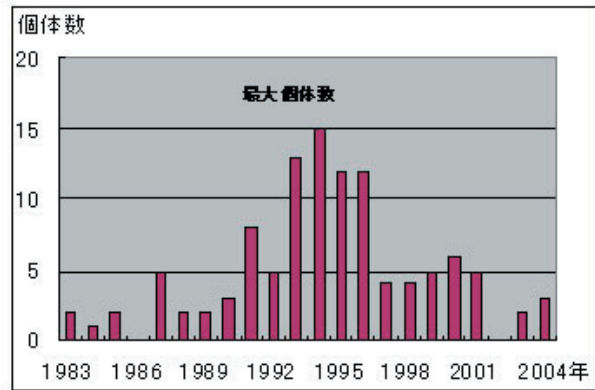


図1. マガモの個体数変動

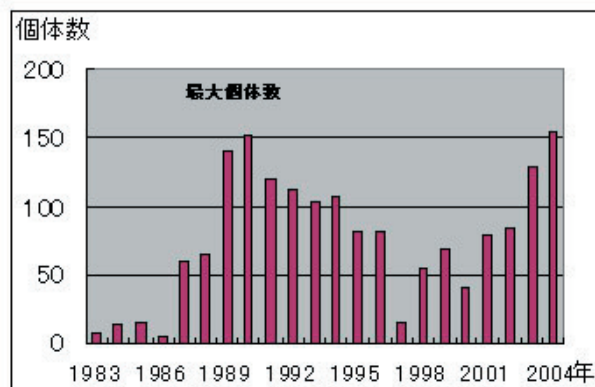


図2. カルガモの個体数変動

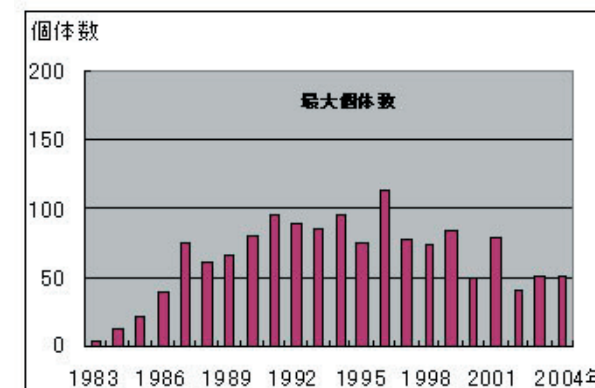


図3. コガモの個体数変動

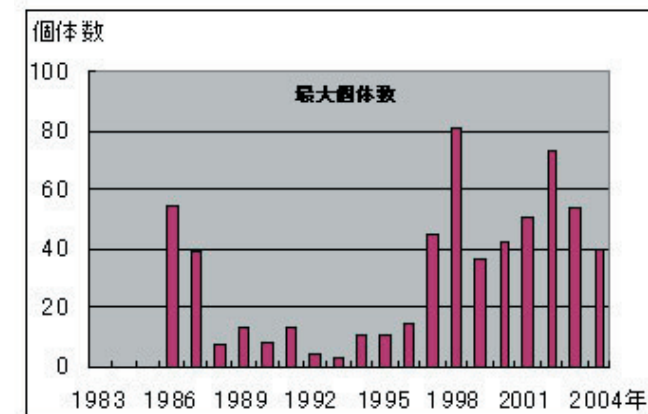


図4. ヒドリガモの個体数変動

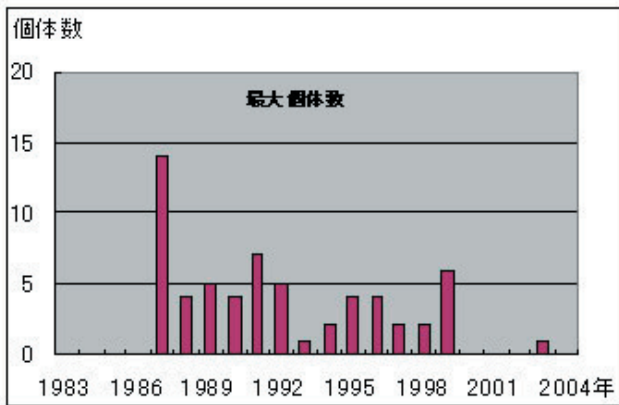


図 5. オナガガモの個体数変動

神奈川支部, 2002)。調査区域内では、毎年確認しているが、個体数は少なく、1987年1月に最大♂♀14羽を確認したが、1989年2月以降減少した(図5)。

ヨシガモ *Anas falcata*

本州以南では冬鳥であり、本県では酒匂川などの大きな河川や湖に冬鳥として渡来するが少ない(日本野鳥の会神奈川支部, 2002)。調査区域内では、2000年3月18日に♂1羽、2001年1月～3月に♂2羽を確認した。

オカヨシガモ *Anas strepera*

冬鳥として関東以西に多く渡来する。本県では多くないが、近年渡来数が増えている(日本野鳥の会神奈川支部, 2002)。調査区域内では、2001年3月13日に3羽を確認した。

シマアジ *Anas querquedula*

おもに春と秋に旅鳥として渡来するが少ない。本県では旅鳥として川や休耕田で少数が時々見られる(日本野鳥の会神奈川支部, 2002)。調査区域内では、1988年3月20日に♂1羽を確認した。

ハシビロガモ *Anas clypeata*

主に冬鳥として本州以南の湖沼、川、河口に渡来する。本県では、冬鳥として各地に見られるが多くない(日本野鳥の会神奈川支部, 2002)。調査区域内では、1986年2月～4月に最大3羽、1987年1月に♀1羽、1989年2月24日に♂2羽、1990年1月に♂1羽、♀1羽、1996年11月に1羽、12月に3羽、1997年12月に1羽、1998年1月に4羽、3月に1羽、2000年1月に1羽を確認した。

カワアイサ *Mergus merganser*

北海道で少数が繁殖するが、主に冬鳥として広い湖沼に群れで渡来する。本県では、少なく、分布も局地的である。1999年までは芦ノ湖に毎冬数十羽が渡来し、他では不定期であったが、この2年では芦ノ湖が減り、酒匂川水系で数十羽が越冬している(日本野鳥の会神奈川支部, 2002)。調査区域内では、2003年1月2日に3羽、1月19日に♀6羽、2月11日に♀3羽、2004年3月6日に♀2羽を確認した。

引用文献

- 日比野義介, 2006. 狩川周辺の鳥類記録. 神奈川自然誌資料, (27): 51-57.
日本野鳥の会神奈川支部, 2002. 20世紀神奈川の鳥 神奈川県鳥類目録Ⅳ. 340pp. 日本野鳥の会神奈川支部, 神奈川.

(南足柄市和田河原 827)

